



2018

なんたる星

## 【目次】

### 連作

(・・・迂回

五月へ・・・加賀田優子

くろがねのね・・・スコラブ

それはともかく・・・はだし

夜に育つ・・・ナイス害

### 競作

なんたるところ・・・御殿山みなみ・スコラブ

ナイス害ナイト ～「フラッシュバックに勝つる」批評会 in なんたる星

事前批評

批評会

編集後記

( 迂回

えーそれって一緒に来ってことですか (笑) 空がだんだん藍色になる

こら (笑) おい (笑) あ (笑) くらいのふざけかたなので公園が滅ぶ程度で済んだ

薄青く暮れる路上を歩いている遠くに人間が滲んでいる (

潰瘍を切ったんだって? (

お見舞いはとてもきれいな折り鶴が真夜中に点滴で溺れる

パイ生地ぜんぜん膨らまない (

人間を思ってお菓子をつくるのが難しくってイースト撫でる

飛び降りて終わったみたい (泣) (驚) (違) (笑) (爆)

) ここでなら溶けたりしないと思うので立ったり座ったりをしている (

五月へ

加賀田優子

動物のしずかなうるさいお葬式ぜんぶの服を着て黒にする

ほんものの羽はすみれの色だけどそれ以外でもゆるしてあげて

てんてけてん てんてけてんてん 満月に てんてけ 歩けば ててん さみしい

藤の花ゆれる真下にわたしたちがいたところ撮られていたらいいな

これがたぶん、さいごのよだれ からまってこまかなこまかな虹がでていた

くろがねのね

スコラブ

〈片付けなくていいんだ、ここは〉

起きぬけにギイと鉄扉の音がして逃げ出すようにかりやどを発つ

カウンター席の丸椅子軋ませてここも定住できない場所か

街並みに灰色続き振り向けば東横インまだ頼もしく在る

生命がある気もしている500缶これほど重い音で生まれて

〈そんなことは知っていて救われたいので、だから、たとえばあなたはくじ引きなどに託すでしょう？〉

街灯もはじめにつくった人がいてつらい夜でもきらきら帰る

乾きすぎ見えない眼で見たものが朱星のよう銀杯のよう

スウインギン・イン・ザ・トレイン 独白を声に出しても許される夜

鉄パイプ地面に落ちる音がして見てもないのにそうだと思う

〈わかってしまうと知ることをしなくなる。とくに、もう23:00を回ってしまっている今では〉

無料とは良い響きでもないもので地球のフリーライダーとして吾

それはともかく

はだし

つてなわけで銭湯にやってきました 家に財布を置いてきたかもよくわからないまま自己紹介をしてハグされたけど成立ですか？

散歩中なのでガソリンスタンドはとて頑丈そう以外ない

なんでだろう休日は昼くらいから、クロックスのこと考えちゃうね

ミドリガメで儲けた人みんなやばいらしい、駅で座ってる人から聞きました

みたことない仏像がまだこの世にはたくさんあって それはともかく

手に顔をかいてたことを忘れてて行きにくいコンビニがふたつある

冷蔵庫事情をちょっと聞いてくださいよ、なめ茸とか買いました

それぞれの卓球観がみえてきてからの30分がよかった

待ちに待った番組だからおもしろいといいな、終わってからも さてさて

夜に育つ

ナイス害

カマンベールチーズはいつも花嫁のフリをしていてふにゃつと座る

純国産の苗字ってもう増えないよ だから、せめて、布団に言葉を

アイコス、何が言いたい。もしかしておまえ音を奏でたいのか

シートが爆弾ならそれもいいな 導火線を探してそのまま眠る

5セントを払わなくても人生相談受けてくれる 全部「うん」で返す

ビールはもうずっと沸騰しています 聞こえてますかロケットの音

やわらかい夜に育つものがたくさんあるね 声が宝石になる

トーストの上でくつろいでる目玉焼き めくったら何かいると思った

切り花になっても切り花じゃなくなっても花瓶の水でお酒を割って

地に足がついていないと思ったら駆け出していて、て、て、その手があなた

湾へ・釣れん・釣りへ・どう？ めくるめく男の汗のダンス教室  
あ 人生 勝手に止まる水栓を予測できてるひとの銭湯  
うしえたののひひとといしきんででいなるいよよねね ね 二段ベッド  
バーバリーの語感のダサさを裏づける服のセンスのある試着室  
折りたたみ傘こんなみしみしはずかしい 人のみしみし みしみし寺院  
腎臓をこの場であげていくくらい記号になってしまう市役所  
はい／いいえ／場合による で全部場合によるだったよ……って 相続セミナー  
割りばしとふうのはしを選ばせてくれたおいしくない定食屋  
不遇貯金パアで不遇貯金パアでなにつくろう 右手をそつと嗅ぐラブホテル  
エロ本で折ったひこうきだよだってここにくるには非常階段

## なんたるところ

短歌 御殿山みなみ

×

文・デザイン スコラブ

その定食屋の名前は「ちよみ」といって、遅癖は過ぎたろうと思われるおじさんがひとりで店を切り盛りしている。ぼくはそのおじさんを密かに「ちよみの親父」だの「ちよみの爺」などと呼んで、たいして話したこともないにもかかわらず勝手に親しみを抱いていた。ちよみの親父とはにかく無口で無愛想な男で、お冷をくれとか、ご飯のお替わりをくれと言っても、灰皿を貸してくれと言っても「あー」とだけ言って、時には何も言わず、それらをテーブルにトン、と置いて去っていく。

いまだき愛想なしの親父の店など昭和でもあるまいしと思わなくもないが、これが意外にというか、見ると常に自分たちの他にも客が入っていて、時には満席で断られるぐらいには繁盛していた。なぜちよみの親父の店に客が集まるのか、理由を考えてみていたが、まず料理がうまいのはもちろんのこと、それ以外にも、上手くは言い表せないが、心地の良い無愛想ぶりがあるということに思い至った。なにかしら、ちよみの親父の持つ空気感のようなものが丁度良く流れているというのを、常に肌で感じていたのだった。

ある時「ちよみ」の帰りに連れと話していて、店名の由来はなんだろうかという話題になった。ちよみの親父といつも呼んではいらぬものの、流石に親父の名前ではなからうということで、例えば妻や娘、あるいは昔憧れた女優や歌手、そんなところだろうかと話したが、あまり人様のことを空想ばかりで言うのもなんだということで、訊けるなら親父に訊いてみたいものだねと言って、その場は別れた。

それから何か月か経った春ごろ、ちよみの親父とめづらしく会話になったことがあった。話としては他愛ないことで、たまたま親父の傍らのスポーツ新聞が野球の記事で、連れが親父にどこのファンですかとかその程度のことを尋ねてからだったように覚えている。

ここでふと、あのことを訊くなら今日がいいのではないかという考えが立ちのぼってきた。なんとなく質問してはみたいがしにくいことを尋ねるとき、脳裏にはちよみだけ助走をつけて飛ぶようなイメージがよぎる。少しだけ、連れにも目を配りながら言う。

「『ちよみ』の名前の由来って、なんですか？」

できるだけやわらかく、ふんわりと飛ばすようにして、言葉を投げしてみた。

「……忘れたなあ」

一言だけ、そう返された。そして、不自然に顔を掻きながらそう言っただちよみの親父を見て、ぼくら、少なくともぼくは、親父は忘れてないのだからと見て取った。そして「ちよみ」についての質問の答えとしては、これで十分なのだとも思った。

おそらくはここから、また心地良い無愛想に戻るのだろうと思っていたところ、最後に親父がもう一言だけ呟いた。

「もう三十年だよ」

その三十年がこの店の三十年なのか、それとももう少し別の、なのかは定かでないが、「ちよみ」と「ちよみの親父」の間に横たわるなんらかの時間の長さなのだろう。ぼくはただただ、定食の皿のキャベツを箸で弄びながら、その長さたるやをぼんやりと想像するしかないのがあった。



## ナイス害ナイト

# 「フラッシュバックに勝つる」批評会 ㊦ なんとる星

ナイス害第1歌集「フラッシュバックに勝つる」  
批評会がなんとる星で開催された。

今回はその様子をお届けしたい。

### 【すすめかた】

事前にメンバーから批評文を募り、それを元に  
批評会を進める。

#### ◆事前評

はだし ...9p

迂回 ...10p

スコラブ ...12p

#### ◆批評会...13p

クイズやさしいね、って番組あったよね　　はだし

笑いながらフェラチオしてる君の目にうつるすべてを忘れたくない

「フェラチオ」って言葉、一首内にインパクトを！とかエロくしたろ！のような文脈で使われそうで、短歌に入っているとちょっと引いちゃうところあります。でもこれを読み終えた感じは違ってます。なんか愛あるっすねに落ち着くというか。で、それはもちろん一首の力もあるけど、読み手に相手との関係性をわからせるための配慮を怠らなかつたこともあると思うんです。連作内へ視点を広げると

怒ってる君の眉間の渓谷でキャンプをしようカレーが美味い  
第六魔王のような顔をする　ラブハンドルを掴まんだだけで

のような歌もはいつて。相手は理由はわからないけど怒ってた  
り、織田の顔してラブハンドル（脇腹のあたりの脂肪だそう）掴  
まむなコラって睨みをきかせたりする。相手がちゃんと不満や怒  
りも顔に出してる、って前提があることで、最後にくる「笑いな  
がら」も信じられるというか。それまでに嘘をつかなかつたこと  
で得た信頼が一首をより輝かせてるんじゃないかなって。あと上  
記の第六魔王、元々は「ラブハンドル」が「お腹の肉」だった  
んですよね。ちょっととしたユーモアも加えつつ、ふたりの距離感  
がより近づくよう修正もされている。そうやって空気を作ったう  
えでやっど「フェラチオ」の歌は言えるんだってことを考えて

やってるんじゃないでしょうか。読み手への配慮。

あぬえぬえ　歌はおまえの餌だから次の歌人のところへ行きな  
で、それが歌集内にも行き届いていると思うんです。その決め手  
かなと思つたのがこれで。今まで読んでくれた人を追い出すか  
のような言葉。これがランチショッピング以降のエンタメに寄せ  
た連作の手前に置かれている。たぶん歌集全体の流れとして「出  
会いから別れ、そして」を描こうとしていたっぽいので、どうし  
ても暗い歌を置かないといけない。それはついてきた読み手に負  
担を強いる事でもある訳で。そういう余韻をすばつとここで断ち  
切るためのこれなのかなと。また「行きな」に向けて最後の連作  
はネタや自虐、メタなど現実世界との結びつきがよい歌で固め  
られているのも、「フェラチオ」の時のような配慮（今度は追  
出すための）に思えて。

ランチ以降、楽しかったです。プレビとか映画のエンドロール  
にZの集入ってる感じで。

トータルするとやさしかった、です。　終わります。

ナイス害はいざというときふわつとしたものを信じる

## 迂回

ナイス害の短歌というと、エスニック・カブキなわけです。想像上にだけ存在するカブキというか。いわゆるきれい・かつこいいとかきたない・みにくいみたいな価値観からやや離れた軸でものを掴んでどんと置いて色を付けている感じというか。見つけた色、知っている色、にすごく自信を持っている眼力の強さ。

もどかしいこの距離感が快感でキリンの睫毛を単位にしよう  
足首に鳩のイレズミ 風を食む SACAI のプリーツスカートの声  
バックミラー越しにお辞儀をし続ける店員さんのつま先に蝶

作り出したり発見したりしてる。セカイってそういう色がついたところこそ存在してるんじゃないのかい？みたいな目で読み終えたこっちを見てるんですけれど、  
でもこいついざというときすごい曖昧なものを信じてるみたいで  
す先生！というのが今回の主張です。

よく知らない言語でお別れしませんか残像でずっと笑えるように

フラ勝つについての見解というの既にぼつぼつと出てて、「人といて」「人と別れて」「フラッシュバックに勝つ」歌集なのだろう、というところはなるほどだいたい腑に落ちる意見で、上で言った「いざというとき」の歌というのはおそらく別れたときの周辺に見える一群の中にあります。

挙げた一首は、おわかれの挨拶を非日常なそれにすることで、相手の残像を強めようと、しかも主体から見て「笑える」残像にしようとしている、というふうに読みました。いっしょにいるときは距離をキリンの睫毛に喩えてみたりしてお互いの関係を世界に釘づけて見せつけるイメージなのに、ここで求めているのは自分に都合のいい残滓だけで、他になんにもすがれるものがない。ひたすらに弱さを見せたこの歌の中ですがったのは「残像」、そして「よく知らない言語」。○○語、とか○○の言葉、とかたとえよく知らなくても書けたんじゃないかと思う（実際直後にウオロフ語の挨拶が挙げられる）のに、ここでは「よく知らない」と書かれた。なんでもいいからよく知らないものにすがった。読者に向けた見栄はどこにもなくて、つかめないものを使ってつかめないものを求めている。

いつの日かあなたを許す正体が謎の光でありますように

フラッシュバックになるほどの出来事にはたぶん許しが必要で（赦し、のがニュアンスがしっくりくるけど）、それはどっちがどっちをとか、誰がそれを判定するかとかの問題じゃなくて自分の問題だと思う。このときこの人が既に許されてるのかはわからないけど、「あなた」の許しを願っていて、少なくとも残像にすがろうとしていたころよりは回復していそうに見える。そして許しを与えるもの、として「謎の光」を挙げる。許された、ってなる出来事でもう少し具体的なんじゃないの思っていて、と  
いってもたとえ「時間」とかの抽象度かもしれないけど、「謎の光」って時間よりばやけた言い方で。光だけでもあれなのに更

に謎までつけてしまった。もうなんでもいいから、とかのニュアンスにも見える。けど、もし「謎の光」でなくてはならないとするなら、それはとにかく光なんだ、ということなのかなと思う。ひたすら光を祈ることはただただ信仰で、そういうものを介してしか「あなた」とはもう関われないことを知っている。

### 性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う

欲、を基準とした性、を歌うこともナイス害はする。それはでも結構一步カメラを引いた、その世界の色を歌ったものだったり、あるいはカメラで捉えきれない抽象度のドエロい歌だったりするんだけど、この歌はもしかしたら性・欲、では捉えきれなかったなにかを捕まえようとした跡に見える。雪はおそらく精液で、性欲が悲しみに置き去りにされたからそれは雪になったんだと思う。やたら動線がはつきり見える雪。追い越せなかった、と思ってしまうところで、わたしとあなたが特別だったことの数多くの象徴のひとつだったとも言えそうなそれは雪に変わってもうずっとそのまま。特別だったときは世界を色付けるアイテムとしておそらくそのまま登場してきただろう精液は、少なくともあなたと同じ世界にもう置かれることはない。雪ってあまりに歌っぼすぎるんだけど、ナイス害性みたいなものがそういうふうに変化せざるをえなかった瞬間の一首だと思った。

ナイス害の短歌における見栄の切り方というのが冒頭の歌のよいうなアイテムづかいだったり、あるいは文字いじりのギミックだったりするのが普段のやり方だとすると、ストーリーの焦点に

近いところで差し込まれている評した三首というのがそれを剥がしたあとのかっこつけてない（つけきれてない）ナイス害の歌なんじゃないの???という気持ちは書いてるうちにわりと固まり、いざというときに切実な対象をおもう歌がこういう、ナイス害のやわらかい部分を見せることになる歌だ、というのは歌集の構成としてはいいのかもしれないけれど、このときに見栄を切（られ）なかったナイス害にとって、今切りたい見栄とは?というのは、今後ナイス害の歌を見るポイントになりうるんじゃないかと思ってます。

ナイス害なやつ                      スコアブ

玄関で交通事故を起こしてるサンダル達に見せる抱擁

ナイス害の歌には、恋愛や性愛について、その行為をいちど客観視して、その周辺の事物にもフォーカスを当てることで、中心にある事象の輪郭を削り出すような、そんな巧みさがあるものが見られる。ではその中心にある事象の、さらに中心にあるであろう、あなたの本心はどこにあるの？と問うたならば、はぐらかしてなかなか教えてくれないような、そんな「見えなさ」というのも同時に存在している。

プロポーズふざけてされたもんだからあれからずっと空洞でした

顔も名前も見えてこない、おそらくは複数の恋愛の相手たち（だったり、YUKIちゃんに似てない人達）とのやり取りや、それに基づく独白を垣間見ていくうちに、核心に近づいていくようにも見えなくても、歌集の構成上、終盤にモードが変わることで、やはりはぐらかされているのではという気にもなった。

そもそも単独の作品の集合である歌集にストーリーを見出すのは読む側の勝手な考えだとは思いますが、常になにかを探しているような男がひとりいて、それを一緒に追うような感覚というものこの歌集からは感じていた。

性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う

その落とし所として、なにかひとつの結論にたどり着くというのは物語として見ればおさまりの良い結末とも言えるだろうが、パッケージとして落ち着いたところに終着するのではちょっと面白くない、言い換えると「ダサイ」終わり方のようにも感じられて、この「まだ続いていく」感じこそがこの歌集に見合った形の終わり方ではないかとも思った。

個々の歌で扱われる事柄はごく個人的な話であったりするが、一度フィルターを通してへたとえばミュージックビデオのような短編の動画を短歌の形に落とし込む過程を経て、その個人的な話を、ひとつの「魅せるためのビジュアル」として組み立て直す、そんな鮮やかな手つきを随所に感じ取れる。

さようなら    そーらーばわーで手を振ってくれる雑貨のようなきみの手

「イメージをイメージとして伝える」という行為において、肌感覚の高さというものが重要であり、受け手がその肌感覚を読み取ること、個人的な事柄に対するイメージが共有できるのではありませんか。そして、ナイス害の歌は、その肌感覚という点において、非常に高い感性を持って描かれており、それこそがこの歌集においての大きな武器であると考えている。

幽霊の気分で橋の欄干に立てば今夜もキャラメル風

# 「フラッシュバックに勝つる」批評会 Ⅱ なんとる星

## 一日目

スコラブ、加賀田優子、はだし、迂回(司会)、ナイス害(著者)

迂回 それでは

夜の方、始めていききたいと思います

スコラブ わー

加賀田 じゃんじゃん

迂回 ナイス害第1歌集「フラッシュバックに勝つる」の会、にな

ります。おらおらやっていきましよう

ナイス害 土下座のAA

迂回 (適切なBGM)

迂回 開催に先立ちまして論を作り上げたみなさまおつでした。今日

はライブな感じで思ったことをぎゅんつと喋ってもらえれば

いいなと思っております

というところで

進め方ですが、事前に3人分論が出てますので、それに

ついてひとつずつ扱っていきつつ、合間にナイス害の方を見る

という感じで進めます いくぞ

迂回 順番かってに決めていきますが、はだしー

最初をお願いしたいです、準備など大丈夫ですか？

はだし 自信ないけどしてみます

迂回 事前提出の文を元にして(しなくてもいい)、フラ勝つに

ついて を10分以内くらい、で語ってもらう感じでは

では

お願いしますー

はだし 自分が「ふたり」をあきらめてる人だからか、あまりうまく

読めないところがありました

ひとりのやつはわかるけど だからいい読者ではなかった

つてのがまずあります

はだし だからなんだろう 外からみてくしかなくて

あ、外っていうのは内容というかつくり、みたいな

でやさしいかも、と思いました

はだし 提出では下ネタのこと書いてます

下ネタはほんとに言うまでの準備いると思ってる

あ、下ネタっていつちゃってすみません 色っぽい歌

そこをクリアしつつやっててすごいなと

真面目

はだし あと書いてないけど

改作どれくらいあるのかって思って

手持ちでわかるぶん調べたんですけど

ちゃんと漢数字になってたりちよっとポップになってたりで

そういうところでも気を配ってる

短歌としてよんでもらうためのっていうのかな？

そういうところもやさしいとおもったので

トータルやさしいみたいなのを言いました

あ、論で

そんな感じですが もっと読めばちがってくるかもしれないけど

いまはそんな感じでした  
終わります

### 迂回

ありがとうございます！おつかれ！  
構成としての気配り、言い方、丁寧さ、みたいなところを読んだ、  
というところでそこも見たいんですけれど  
提出文の冒頭挙げられた一首

### 笑いながらフェラチオしてる君の目にうつるすべてを忘れたくない

が、歌集の中で（丁寧に導かれてた、というはだし論も含めて）  
キメっぽい歌に見えるし、この一首についてをまず聞いてみたい  
かなという気持ちです  
じゃあまず加賀田はこの歌どうでしょう？ はだし論含めて、  
でもそれ以外のところでも

### 加賀田 やさしさはたしかによんでいくときの重要ポイントだなと思

ます  
で、やさしさとは…となる

なんとなく包容（抱擁）力かなという感じがします

### 迂回 ふむ

加賀田 「君の目にうつるすべてを忘れたくない」という、とこで  
まるごと！ぎゅーっとしたさがあり

そういうところがやさしさにつながってきそう

その包容！を、ふたりのあいだのものに限定することで

より密度の濃いやさしさがくるのかな

というあたりまでひとまず考えました

### 迂回

あー

基本はだし論は主に読者に向けた、構成として、のやさしさの  
話とだけ見てただけ

とうぜん一首のなかにいる「君」にも向けられているしその濃さ  
が感じられるという

短歌のふたり性 みたいなところも読みどころとしてありそう  
ですね

ではそのへんも含めつつ、先に挙げた歌についてスコラブどうで  
しょう

### スコラブ あとで語るとこともかぶるかも、だけど、

包括的やさしさ、というか、視線が一步外から見てる感じで、  
君についてのみ見てるでもなくて、きめ細やかに見てるその自身  
の視線の柔らかさというか

例えば「君の目にうつるすべて」ということは、それは「俺」も  
含むわけで

すべてひっくりかえって見てるっていう、そういう視野の凄さみたい  
なのを感じたかな

### 迂回

見てるやつの視野、というのは確かにナイス害短歌で  
意識したいところではあり

「すべて」はほんとに論理的なすべてなんじゃねえかな と思わ  
されるような、理路的というか感情外の部分で組み立てられてる

気配はわかる

### 迂回

あとはだし論の中で最後に挙げられた

あぬえぬえ 歌はおまえの餌だから次の歌人のところへ行きな

これですかね これ僕があんまりうまく解釈できてなくて、

論の中で「そういう役割か」となったんですが

これの解釈も聴きたいですね 順に加賀田ー

**加賀田** 歌集内の役割みたいなのはぜんぜん考えずによんじゃった

なーとなり

私もはだしさんのを読んでな、なるほど…と震えたやつです

自虐、は思った

けどなんだろうなー、あぬえぬえーって虹の背中みおくってるかんじがさわやかで

あんまりネガにはならない

配慮：モチーフ選び…

**迂回** 語呂フェチというかおもしろい語感見つける固有技を使いつつ

展開の締めを担いつつ、という役割、な歌で

**加賀田** 創作力のひとつの枯渇した瞬間をかいてるんだとよみましたが、

「いまこちらにはないのでほかの歌人のとこいってください」っていう受容からの手離しだからいいのかなー

**迂回** これ以降の歌を語る、というのがある種難しくもしてるんだ

けど、ネタ寄りの歌を殺さないためにはそれこそ狙いな気もする途中で思ったこと喋ってしまった

**加賀田** ぜんぜんだいじょうぶです！まとまらずしゃべってすみま

せん

包容擁受容

が、やさしさキーワードに加わったぞっていま自分で気づいたあたりでした。そんなかんじです！

**迂回** うん 単独で読む…と、虹に語りかけてる図…なんだよな

スコラブこのへんどうでしょう。わりと特殊な位置の歌なのは？という

**スコラブ** うん、なんとなく思ったのは、「あぬえぬえ」を「虹」と

ト書きしつつも、もっと意味の広い、まあ有り体な言い方に

なっちゃうけど、才能とか、ギフトとか

そういうものを「あぬえぬえ」という言葉に託してるのかなーと

いう

**迂回** なるほど

**スコラブ** そんな感じがして、それが自分だけのものではないと言ってる

**迂回** そんな気がしてきた、すごい

**加賀田** 自分だけのものじゃない！おお

**スコラブ** 決別の歌のようでもあるけど、巡り巡って戻ってくるという

感じがして、そこに

ある種のポジティブさも感じるという

というところで、追い出しとしての役割なのではという

そんな印象でした

**はだし** またな、って言ってる感じありますね

**迂回** 謎の語感の単語にト書きつけつつも別のもの込めてるのでは？

というのには「照れ」みたいな部分も見えて人間くさという感じがあっているですね

さてではこの辺の歌、論のあたりで他に言うことがあれば！

おねがいましたいす 曖昧

**迂回** なんたる星としてはこの歌以降の解をやってこそでは？という

期待も少しあったんだけど、今回出た論だとすべてかわされてたなというのがある

それももしかしたら歌集の狙い、に入れてもいいのかもしれないということ NG集は楽しんで終わり以上のものをしてはいけないよね…というのもなんか違う気もするけど

でははだし論はこの辺でべです！



スコラブ プランチシヨッピングはそれはそれで語りたいよね

迂回 ナダルリパースエポリューションがもう完全に匂じゃなくなつて、下手するとフラ勝つ内で生き延びていくのではとか

スコラブ 短歌限定でそういうミームになるっていう

加賀田 文化

迂回 コロチキ…

迂回 時間調整がやっぱりへたくそになってしまった、次から意識します

はだし ナダルさんに読んでほしい

迂回 しかしとりあえず 10分ほど休憩にしましょうか

その間害に関係ない質問をすることができます

ナイス害 椅子に座ってカーテンにくるまっています

迂回 さむいん？

加賀田 立ったまま…？

ナイス害 居ても立っても居られなくて

加賀田 あ、座ってた

くるくるまきに…

迂回 居られない立てない←カーテンにくるまる 理路だ

加賀田 整然

はだし 害さんなんかすみませんでした

ナイス害 はだし論を読んで、わーバレてる！となりました！

はだし いい読者ゝのところ

とか

ナイス害 いえいえ！ぜんぜん大丈夫ですし、むしろもっと辛辣な評

もらってでもいいくらいです

迂回 ひとり性ふたり性という切り口はたしかに興味深いので、

はだしの読み切れなかった部分、ていうのはどっかで言語化する  
と僕などが得をします

はだし ありがとうございます

あ、はい どこかで

ナイス害 オレも得します

迂回 しゅわわゝ

では続けるよーだいじょうぶかなー

ちよつとかなり遅くなつてしまいましたがお時間的にも

加賀田 加賀田はだいじょうぶです

迂回 とりあえずでは

次迂回いきます

司会があれですが適宜喋ります

今回ピックアップしたかったのがナイス害の短歌における視点、

というところで先程も少し話題に出しましたが

いわゆるナイス害ぼさというのがどこから来ているのか？を探して出てきたのが

迂回 序盤「エスニック・カブキ」「見つけた色、知っている色、に

すごく自信を持っている眼力の強さ」

というあたりのワードで表現している、短歌の上での見栄の切り

方にあるのではないかと？という前提を取り敢えず置いたうえで

歌集上での転換点、視点の人がいちばん揺れているところに置か

れた三首

よく知らない言語でお別れしませんか残像でずっと笑えるように

いつの日かあなたを許す正体が謎の光でありますように

性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う

の曖昧さ・ふわっとした表現 というのが前提にした見栄の切り方（短歌の中でのものの見方）となんか違う、というのをポイントにしました

**迂回** その2種類の視点の違い、というのが、はたしてナイス害はどうなっていたのか・どうなっていくのか という部分で重要なのでは…というところでこういう論になりました  
以上、そういったところで

じゃあはだし、このあたりの挙げた三首で気になったものとか、論についての何かとかあればお願いします

**はだし** これからどうなっていくんだろうを（期待しつつ）見てる みたいなことですか？

視点の違いまではわかったんですが…

**迂回** 結びとしてはそんなかんじですね

**加賀田** 見栄からのところ

**迂回** それが今までやってきた害の武器（にみえるところ）を錆びさせるのか強化するのか、という

ところを見据えるうえでのポイントとなる差異なのでは？と思っ  
てます

**加賀田** ふわっとしないかめちやめちやふわっとしていくのか

**はだし** あー

なんかつかめてきました

**迂回** うん、短歌ってわりとふわっとしがちなんだけど、挙げた三首を見たうえで思い返すと、害の短歌ってふわっとしてなかった  
など

それが武器だったのでは？という思いがあります

**はだし** そうですね、見栄あります

**迂回** そう、見栄もわりとキーになるワードとして置きたかったところ  
で

**はだし** それと、歌集を作るうえで見えてしまった（素っぼい）ナイス  
害さん

**迂回** うん

歌集のうえで必要などころで弱さを見せる、という構成は正しい  
ように見えるけど

そこでそういうふうに見栄を取り除いちゃって大丈夫なのか  
な？？という

**はだし** ここで見栄を切れないでどうする、って不安 害さんが害さん  
らしさをうしなっていくのではみたいな

あ、似たような事書かれてる

**迂回** 歌人として何か変わる兆候なのでは、という気配を感じつつ、

期待…もあるけどどうなる？？が大きい

不安、もそうだけど、入り混じってるかんじですね

**はだし** 期待も  
ですね

**迂回** なんやかや整理してもらった感じになりましたね

**はだし** こちらこそすみません やっと読み込みました

**迂回** 取り敢えず次にいきつつ、あとでまた何か出たら言ってもら  
うかんじで大丈夫でしょうか

**はだし** すみません

**迂回** 大丈夫やで

ではスコラブにお願いしようかな 聞くこととしては同じく挙げ  
た三首とか論について何か、という感じですが、適宜絞って

語ってもらっても

スコラフ はい

短歌という音楽ジャンルがあるとして、その中でサブジャンルがいくつもある感じ、というのをなんかイメージしまして、普段のナイス害が得意とするのが、わりとリズム重視だったりするジャンルで

感傷的なことを描くのに、メロディ重視な方向に舵を切ったような、そんな印象に思えました

迂回 普段の、アイテムをとんとんと置いていくかんじがリズム、

という感覚になるのかな

短歌の韻律的な意味ではないよね？リズム

スコラフ そうだね、具体性のある単語だったり、アイテム

そういうアイテムを重ねることで出るビートみたいなのがある  
と思ってるんですけど

迂回 なんとなくわかる

加賀田 「獅子舞メス獅子舞」あたり

迂回 意図的に「メロディ重視」をコントロールしたのでは…という

印象もまあ確かにあるんですよ

スコラフ うん、天然的に「謎の光」という言葉は多分じゃなくて

ナイス害の思う「メロディ重視な感じ」の表現なのではと  
そんなことを思っていました

迂回 単に思ってたよりナイス害の武器が多かっただけ説

考えてるとき途中で「はたして主体はナイス害」としてよいものか？」というのはあって、≠ だった場合は成立しない説よな…  
と思っただけ

Ⅱ の場合でも、ナイス害が想像以上にクレバー歌人なら矛盾し

ないのかもしれない

「フラッシュバックに勝った後につくった…とすると多少、だ  
けど無理はなくなる、かなあ

とりあえずこのあたりでまとめ。次に加賀田お願いしますー

加賀田 これは雪舟さんも書いておられますが生身の害さんをしてい  
るので

害さんのあの色彩感とかを思うと「カブキ」「見栄」の単語は  
しっくりきます

が、よみすすめていくとわたしは「見栄」よりは「リップサーピ  
ス」な印象をうけて

スコラフさんの「リズム重視」もサーピス。読者、受け手を盛り  
上げる手法みたいな

リップサーピスはちよつとちがうかな言葉のかんじが…すいませ  
んぱつと出てきたのいってしまいました

迂回 んんん

スコラフ 装飾的な感じのイメージ？

迂回 普段のかんじが実はけっこう取り外し可能な、素ではないこと

がわりと明確な部分なんじゃないかと

加賀田 感情の繊細なところを、まるのままだされると「重い」ってな

るときあると思うんですが、そこをあの手この手で回避して  
重さ回避のための装飾…なのでそうですね、素はどこにあるの  
か？になるのか

性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う

とかがあるのを見ると、その回避は徹底的にされているわけじゃ  
ないようなので

サービスいれてしまふところが逆に素なのかな、って考えましたわーお、まとまらない……くやし……

迂回 ふむむー

スコラブ わりとわかるし、それがまとまらないのもわかる気がする

迂回 ちなみにちなみに「見栄」は日常でいう虚栄みたいなことではなく、歌舞伎の見栄の意味でつかったので、サービス的な意味に近いです

加賀田 おー、よかった。ちょっと虚栄方向にとつてました

ちよいちよい見栄にくるむところ含めて素であつて、なんだろ、だからこちらもうれしくなるのでは。素を隠したり、だまされているわけじゃないという安心感

迂回 どっちも素……というのはうん、そうだと思う、んだけど

加賀田 ううう

迂回 短歌表現のうえでのらしくなさ、を要所らしきところで見てしまった衝撃という感じかな……

加賀田 「ナイス害はこんなこと言わない」的な……?

迂回 ウケ狙いで言うのはありえるけどそこで言うのか、という感じですね

スコラブ でも、その地点に置いてあるからこそ強いとも

迂回 もちろん瑕疵というわけではないし構成は正しいとも言えるんですけど

そこまで制御したのか、しきれなくってそうだったのか、  
今までのナイス害短歌とは、これからは、というぐるぐるです  
ね

けっこうやっかいな話そうだ

とりあえずこのへんでまとめますね

加賀田 ぬあー、すみません……

迂回 こちらこそもうちよいいあれをあれてしたね……

はだし、一連のなかで諸々思ったことなどあればどうでしょう  
はだし ここまでをを全然追えてないんですが

なんとなく

迂回 考えてたことであえやで

はだし みんな害さんの立つ「位置」に迷っているみたいなきらびあつて

そうだった時迂回さんの出した指針みたいなもの  
出したのがひとつの指針みたいなのになりそうと思いました  
ぼんやりしてるな

迂回 今回最初に「ナイス害はこう！」と取り敢えず決めたところから始めたので

その前提が違えば全部違う、というのは話す中でちょっと出てたけど、なんかの基準になるなら良いですね

さて  
ナイス害の眠気が心配な時間になってきたけど走り抜けていい  
ですか

むりぼですか

スコラブ 仕切り直しになるとちよつと大変なので、言いたいことだけ

迂回 せやんな  
害はとりあえずカーテンのまま寝ないようにしてもらいつつ  
スコラブの論をもらいましょう。

スコラブ ちよつと話しつつ書きためたので、ばばつと流すけど、

大まかに2点あつて、1個は今も言つたナイス害の素の見えな

さて、もう1個は情景の見せ方、肌感覚の感じさせ方の強さ、です

**スコラブ** 内容の多くが恋愛や性愛に割かれているんですけど、その実じめっとした感じがそこまでないなど。俯瞰とまでいかないんだけど、一歩外から見ているような視線というのを感じていて。ただ、別に冷たいというわけでもなくて。それは、主体自身にも、歌に詠まれる相手達に対してにも。

**スコラブ** 歌の中のその行為を通じてどう思う、どう感動している、っていう、ウェットな部分よりも、わりとその周辺にフォーカスしているようなところがあるって。それが、一度言った視野の広さ凄さというところでもあるんですけど

**スコラブ** 強い心の動き的なものももちろんあるし、例えば、迂回も先にあげていた「性欲はまた悲しみを」とかそうだったりするのだけど、それもすべてかというところ、全然すべてではないようなさらけ出しているのか、いないのかって、はぐらかされるようでもあって、それが素なの？と考えると、さらにもう一枚裏があるような気にもなるというか。そういう底の知れない感じというのがすごいし、でも嘘じゃないよ、みたいな

**スコラブ** そういう意味でも、特定の着地点がない終わり方ってのがいいし、これからもわからないという可能性の提示でもあるかなという気がしています

**スコラブ** あと、それぞれの歌の情景の組み立て方というのが、ナイス害の世界というか、ビジュアルという言い方をしたけど、音もあって、手触りや距離感も感じるような、そういう映像に仕上がっているなと思って見ていました

**スコラブ** 自分(俺)やそれぞれの相手、というのがいて、それぞれ

の個性というところよりは、その距離感だったり、肌で感じる感覚というところに強い興味を持って描いているような、そんな感じを受けました

**スコラブ** その肌感覚が極まったところにあるのが、例えば

幽霊の気分で橋の欄干に立てば今夜もキャラメルの風  
に代表されるような歌で

そういう感覚に惹かれポイントがあるのかなということも思った、というのが、だいたい言いたいことでした  
以上です

**迂回** ありがとう

肌感覚 がスコラブ論のなかのキーワードだというのは思っていて、五感の中で触覚を重視している…ということではない？

**スコラブ** 触れる、とか手の感覚は重視してるのだなというの思っていました

あとは肌触りのなもの

**迂回** 内面、心情よりもそういう五感(触覚)を中心にするので

客観性とか、それを重視することで現れてくるビジュアル性  
とかの組み立て方が武器なのでは…という話と

**スコラブ** うん、空間とか質感に対する認識がすごいんですね

**迂回** どこが素なのか？という話に戻れば、どうやら少なくともまだ底を見せる気はないのでは…という話

「嘘じゃないよ」という説得力のありかた、みたいな話もできそうです

・・・ここで眠気、地震、雷などの諸々により時間切れとなり、最後

のスコラブ論の討議については後日仕切り直しとなりました。

### そんな二日目

加賀田優子、はだし、迂回(司会)、ナイス書(著者)

迂回 ではは前回の終わり際の話を取り返りつつ再会しますねー

加賀田 あいー

迂回 スコラブの論点としては「素の見えなさ」「肌感覚」という2点が語られました

恋愛・性愛という大きな割合を占めるテーマにしてはしめっぽさの少ない読み味、心情を描写するのみではない、妙(といっているのか)な客観性が見えるところなど

迂回 嘘はついてないよ、といっているふうだけど底の知れない感じとして「素の見えなさ」、そしてそういう客観性にも繋がるのかもしれないけど、触覚を重視したような描写・組み立て方の巧みさという点で目立つ「肌感覚」というワード

迂回 このあたりをキーとして読み解いたのがスコラブの論、という感じですよ

このあたりのキーワードで思うところ……という聞き方でいってみよらかな、加賀田からお願いできますか

加賀田 肌感覚、のほうがあんまり私は深く考えられなくて確かに触覚のものは巧みなかんじがあるけど、でも、でろんでろんにセクシーとか、めっちゃめっちゃ痛そう、すぎるのがなくてなんとなく安心して読めるなあというのは思いましたで、「素の見えなさ」について

迂回 うん

加賀田 これは思ったんですが、サーピス精神がゆえに、核からちょっと離れちゃってるから起こるのではと

短歌の、核Ⅱいちばん最初にぐっときて、こんなのつくろう、となつた部分 が、あるとして

それを表現する、となつたときの

表現の仕方、で、「他人にたのしく伝わる」Ⅱサーピス みたいなところの技が多いので、ちょっと核から距離ができて

で、それが「素の見えなさ」になつてるんじゃないでしょうか  
迂回 はーはーなるなる

サーピス、というのはつまりおもしろ系短歌を指している？

加賀田 おもしろ系短歌……というのはあんまり考えなかつたですね

わかりやすさ、つたわりやすさサーピスのために、核：感情面のゆずれる幅が広いんじゃないかなと思いました

読み手の読後感にすぐく意識のいった作り方をしてるかんじなのかなーと

迂回 なるほ

短歌らしい良さを担保しようとしてる感じ

俯瞰・客観性みたいな印象もそこから出てるのかな

加賀田 かなあとあります

迂回 素を見せるのが正義ではないし隠し切るのが正義、でもないけど、グラデーションの見せ方としてはたしてこれは狙った印象

を与えてるのかという

加賀田 うーん、どうなんでしょう……

迂回 ありがとうございます！ 他なにかありますかー

加賀田 だいじょうぶです！ いろいろいいことはだいたいこれでした！

迂回 はい！ では次、はだしにお願いします

今の話を受けて…でもよいし、キーワードについて別の話でも

はだし 触覚、手の感覚を重視してる とか読み返して

おーとなりました

「手」と名乗る人出てくるし

はだし 加子さんがでろんでろんにセクシーとか、めっちゃめっちゃ痛そう

がない みたいなのは

まず手（触る）の距離感からはじまる みたいな

とこにあるのではと

あと「素のみえなさ」は

迂回 うん

はだし 加子さんが言ってるのわかるなとなって

サービスっていうのが出てきたけどこれは会話

「核」を文字に起こすときのかたちづくり方に普段会話する

ときと同じ方法をつかってる

ことで起きているのかなと思いました

文字脳と会話脳みたいなのがあったとしたとき（どちらがいい、

とかはないやつ）

加賀田 なるほど…！

はだし 会話脳で戦ってる、みたいな

迂回 ちょっとびんとこないけど例になる歌とかある…？

スコラプの論から引くと

プロポーズふざけてされたもんだからあれからずっと空洞でした

性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う

あたりがその話の所だと思うんだけど

はだし 思いつきでしゃべってるので

やばいんですが

迂回 ゆったりいきましよう

つまり相手（＝読者）を気づかう手つき、みたいなのが会話脳か

加賀田 全体的にその脳でできてるように私はおもいました

はだし 性欲はまた悲しみを追い越せず最後の雪の動線を追う はもつ

と汚くできそう

迂回 なるほど

はだし 汚くというか本當を伝えたいならできると

それじゃ会話にならないというか

その線引きがきっちりあって守られてるような

迂回 短歌として、というか会話としてこうしなきゃというライン

はだし あーそんな感じですよ

それがベースに使われてるから

読むぞ、としたとき軽みとか素の見えなさとかの話になってく

るのではという説

ぼんやりしてすみません

迂回 性欲は、は比較的素寄りというか、普段のナイス害短歌らし

くない…という引き方を僕の論のときしてただけど、まだ汚

くできるはずだろうとなるのすごいな

お化粧厚くした方面のらしくなさだったのかもしれない

加賀田 わたしもそんな気がしてきました

はだし 平気でそのラインこえちゃう側の意見なので

迂回 はだしの「やさしさ」の話ともつながってくる話だと思うし、

会話脳はいっこキーワードですね

はだし そうですね やさしさ

迂回 ありがとうございます！ とりあえず締めたいと思いますが、

全体でなんかあればどうでしょう

時間を置いてみるとけっこう一個に収束していくお話で、伏線

回収の気持ちよさがあつたかとおもいます

加賀田 はだしさんの会話脳のやつで、わたしはだいたいぶ納得しました

サービスって表現ではなしてたけど、これだと一方的なかんじも

あるので「会話」がちょうどのニュアンスのような気がします

迂回 サービスだとちよつとネタとして、つぼさ感じましたね確かに

加賀田 会話のほうが切実さとか、素の見えなさの辻褄あうと思います

ということ今ひとり頷いてます

迂回 というところですかねー

加賀田 はいー

迂回 それではなんたる星 ナイス害ナイト、これにて締めます……

ので！

著者・ナイス害の挨拶だよ！

ナイス害 あ、！

迂回 起きてる？カーテン絡まってない？

はだし わーわー

加賀田 ほどきほどき

ナイス害 前回に引き続き、こうして時間を割いてくださり、本当にあ

りがとうございます。

東京での批評会を挟んでいるので、個人的にもそれ前後みたい

なテンションになってます。

私家版とはいえ、歌集が、まな板の上に乗ることは凄いいことだな

と思いました。

みんな各々の包丁を研いでくるのがほんと怖くて、でも斬られる

快感もあって、不思議な感覚です。

筆名、なんたる星でいる限り、ナイス害は変えないでおこうと決  
めました。

うまくべられないのですが、

なんたる星のメンバーみんなが歌集出るまで、短歌はやめないで

す。

以上です

ナイス害 なんだこのあいさつ、、、

迂回 ありがとうございます！……！！……！！

補足としてチクっておくと、東京批評会のあいさつで「筆名を本

名に変えようと思ってた」発言がありました

加賀田 ほー！

ナイス害 そうなんですよ

加賀田 そうなんです

迂回 ナイス害はギリギリ今もナイス害ですということ

加賀田 おおお

きりぎり

ナイス害 ですです

はだし よかった

迂回 では ナイス害ナイト 以上……！！……！！です

読書会もがんばってねー

ナイス害 おつかれさまでした！

ありがとうございます！

加賀田 ほんとーにおつかれさまでした……！！……！！

はだし おつかれさまでした……！！……！！



## 【編集後記】

「事件がなければ存在できないくらいなら」と悩んだ名探偵は、自身を北と東と南と西に分けました。それぞれは探偵となり、猫を探したりおすすめの上履きを調べたりして暮らしていました。

ある日、北でも東でも南でも西でもない場所で事件が起きます。動物園へ予告状が届けられたのです。

「今夜0時、ゾウ一柱とピグミーマーモセット2ダース頂きに参ります」

単位が怖いと思った園長は、必死に助けを求めました。

それは一大事と集まった探偵たち。ゾウにまたがり、ピグミーマーモセットを纏い、見回りをし、武器を持ちました。

迫る時間。ねむる動物たち。夜更かしのカンガルーの目はらんと光っています。ざわめく木やこきんと傾く掃除のモップ、気配だけが増していき、探偵たちは焦ります。走り回ってぶつかって北と東がひとつになります。ピグミーマーモセットが増えている気がする。キリンから落ちた南と西がひとつになります。ゾウが死んだら犯人が見つかってしまう。ふたつがひとつにもどる頃、カバのあくびが0時を告げて、平らな石が割れました。

2018年5月19日 迂回

れんこんありがとうね。刻んでもとてもおいしかった――

執筆者

はだし ( [@hadashinomanmay](#) )

加賀田優子 ( [@0ccak](#) )

スコラブ ( [@scope\\_scape](#) )

迂回 ( [@ukaian](#) )

ナイス害 ( [@NiceGuuuy](#) )



なんたる星5月号

発行日：2018年5月20日

編集発行人：迂回

表紙：スコラブ

Guest: 御殿山みなみ ( [@lookat2](#) )

Twitter : [@nantaruhoshi](#)